

(一社)千葉県建築士会女性委員会 HUG体験セミナー(案)

日 時 平成27年1月30日(木) 13:30~17:00

会 場 千葉市中央区中央 4-8-5 建築会館 4F 会議室
TEL 043-202-2100

参加予定 約60名(6~7グループ)

【タイムスケジュール】

司会進行 ○○ ○○

13:30~13:35 開催挨拶⇒ 千葉県建築士会女性委員会 蘓理美登志

13:35~13:50 防災塾だるま挨拶と説明⇒白田 克雄氏(配布資料=地域防災拠点とはダイジェスト版)
避難所運営に関わる人とは
被災者⇒ そこで生活する人 救援物資を求める人
避難所運営スタッフ⇒ 自治会・町内会の避難所運営役員 自主的に役割を担う人
行政スタッフ⇒ 予め決められた職員・連絡員及び災害対策本部役員
その他⇒ 警察官、消防関係の職員・団、自衛隊隊員、
医療関係者(医師、看護師、保健師など)
災害ボランティアセンター関係者(社会福祉協議会職員・各団体など)

HUG 進行⇒ アイスブレイキングを含め 防災塾だるま 中村 俊光氏

13:50~15:10 HUG説明(避難所運営とは、HUGのルールなど)⇒防災塾だるま 中村 俊光氏
《ファシリテーター、リーダー、書記の役目》

グループ別HUG実践⇒ 同

ツール手配⇒ 成松 洋氏

15:10~15:25 休憩

15:25~16:00 グループ別発表と解説⇒

16:00~16:50 グループ討議=地域防災活動について } 防災塾だるま 中村氏

16:50~16:55 講評⇒ ○○ ○○氏

16:55~17:00 閉会挨拶⇒ 千葉県建築士会 ○○ ○○氏

17:00 終了

避難所運営とは

災害時（震災、津波、大火災、風水害等）に住民の避難場所として生命と財産を守り、また生活を維持して行くために設けられた場所を災害時避難場所（地域防災拠点）という。

震災時避難場所に指定された小中学校に、防災備蓄庫を整備し、防災資機材や食料等の備蓄及び飲料水の確保を行い、大規模な震災では消防隊や救助隊の活動とあわせて、特に地域に住んでいる住民の皆さんの相互協力による防災活動が不可欠となってきます。

「自分の身は自分の手で守る、皆の地域は皆で守る」という気持ちを常に持ち、災害に備えて、日頃から準備と訓練が必要になります。

【例：横浜市南中学校地域防災拠点】

その避難所運営を担う組織地域防災拠点（避難所）運営委員会とは、地震などの大規模災害が発生して小中学校が避難所になった時、地域住民・行政・学校がお互いに協力して、**円滑な避難所運営を行うための組織**です。

1. 震災時の主な活動

- (1) 鍵の解除、建物の安全確認
- (2) 避難時場所開設、避難者受付・区割・誘導
- (3) 負傷者の応急手当、高齢者、障害者等要援護者の援護
- (4) 家族の安否確認、防災資機材等を活用した救助
- (5) 仮設トイレの設置や食料、救援物資等の配布
- (6) 循環式地下貯水槽（応急給水栓）の設営

2. 平常時の主な活動

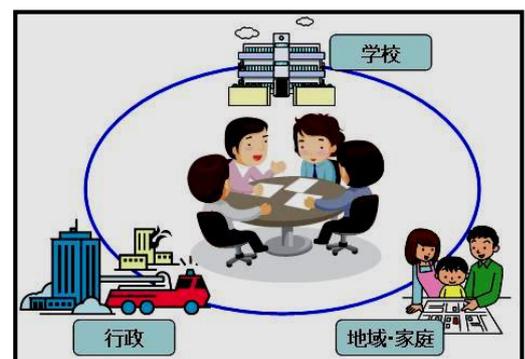
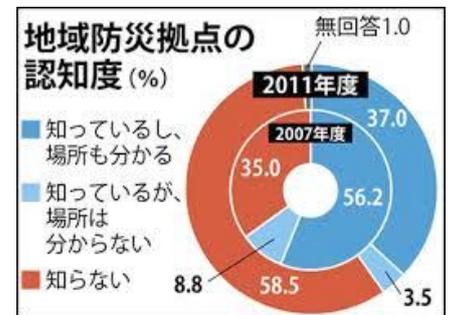
- (1) 避難場所運営マニュアルの作成（各班ごとの役割）
- (2) 防災資機材等の取扱講習及び防災研修会の開催
- (3) 防災訓練の実施
- (4) 防災備蓄庫の点検・管理
- (5) 拠点運営費の使途及び管理（補助金額が適正か？）
- (6) 実践的シミュレーションゲームの展開（HUG、DIG、クロスロードゲーム、防災ウォークラリー等）

各区内の運営委員会相互の連絡及び連携を図るため「地域防災拠点運営委員会連絡協議会」を結成しています。

3. 主な運営委員会メンバー

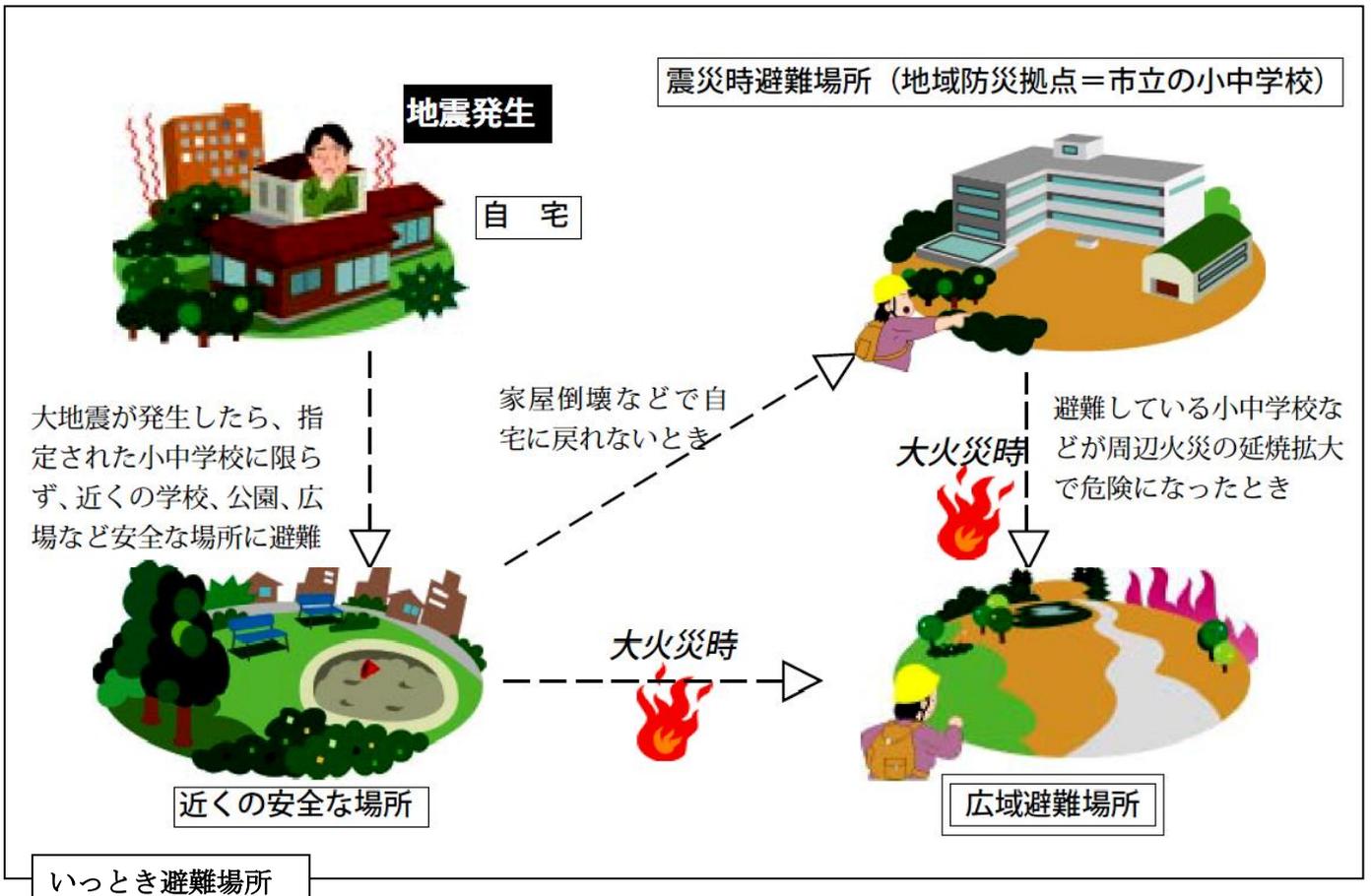
- (1) 学校教職員（2名）
- (2) 区役所職員（2名）
- (3) 消防署員（1名）
- (4) 消防団員（2名）
- (5) 地域ケアプラザ職員（1名）
- (6) 主導権は地域住民（拠点によって違う）

《勿論、災害時は被災された避難生活当事者も運営活動に従事します》





避難方法





2004年 中越地震避難所生活の実態



2004年 中越地震避難所生活の実態



住民による物資輸送の風景



釜石の奇跡

釜石東中学生が小学生を誘導して避難



南中学校地域防災拠点訓練

障がい者団体との連携した避難訓練等を実施



千葉県建築士会 会館（横浜駅 J R横須賀線千葉行⇒京成千葉線乗換⇒千葉中央駅）



★主催者側が準備する物

- ・受付、グループ別テーブル、椅子、配布物
 - ・パソコン、・プロジェクター、スクリーン、・カメラ（記念撮影用）
 - ・出席名簿（当日に防災墊だるま提出用も含む）・ふりかえりシート、必要セット分用意
 - ・付箋、・模造紙、・筆記用具

★「防災墊だるま」が用意するツール

- ・学校地図類、・HUGカード、・カメラ

★決めて欲しい役割（各テーブル）

- ・ファシリテーター
- ・発表者
- ・書記

皆で事をやり遂げようとするとき

『ゆっくり 急いで』

『熱い心と冷めた脳』

『つどう つくる つながる ひろがる』

ときとして

『群れない 慣れない 頼らない』

人間の営み（自動車の4サイクル）

『吸入 圧縮 爆発 排気』

◎アイスブレイキングとは？

- 直訳すれば、固い氷（アイス）を溶かす（ブレイキング）や「雪解け」などという意味になります。
- これを人と人とのコミュニケーションという観点に当てはめて考えてみると、以下のようなこととなります。
- 不特定の人々が集まる場で、人々の少し閉じた、警戒している心を楽しく開いていくことが出来るのが「アイスブレイキング」なのです。まさに、人と人が出会ったそのときに、心を開き、互いのコミュニケーションを深めるきっかけを生み出す「出会いのコミュニケーションワーク」です。

◎アイスブレイキングの「目的」

- 各種の講習会などに集まった、お互いを全然知らなかった参加者が、その講習などを始める前に、**氷のように固まった参加者間の緊張をほぐし、参加者がお互いに親しみをもち、主体性に学習に参加する雰囲気を作る**ことを狙いとしています。

結果として、本題である講習会などを円滑に進めることが出来るようになります。

この「アイスブレイキング」手法は、言葉をかけ合ったり、握手をしたり、ゲームをしたり、体を動かしたりして、参加者同士がふれあう活動を中心に行います。

アイスブレイキング シート II

個人情報保護法の範囲内でよろしい

お名前は
所属は
出身地は
生年月日は
所帯は

◎ファシリテーターとは？

■**ファシリテーター**とは **facilitate** という英単語から来ている「**促進する、簡単にする**」などの意味で「促進役」→「調整し」→「うながす人」ということになります。

- ① 話を広めたり、深めたり、進めたり、あるメンバーとメンバーをつないだりする。
- ② 同時に、自分も一人の参加者として、他のメンバーに自らを開いていきます。

◎ファシリテーター役の「目的」

- 会議や参加者の学びの場、何かを創造してゆく場面を、相互作用しながら進行する人。
その場にいる一人ひとりが本来持っている力や、意見・経験・感性・感情・個性などが、あふれ出だすような場づくりや進行をする。個々の魅力を引き出しつつ、全体として調和のとれたものを紡ぎ出す役割。
ファシリテーターという人が重要ではなく、その行為や役割こそ、と思っている場合は「ファシリテーション」という言葉を使うことが多い。

●ファシリテーターの心得

- 1、相手の立場に立って、主体的に、その場に存在すること。
- 2、その場で起こっていること（プロセス）をよく観察し、状況が把握できていること。
- 3、状況に応じて、柔軟に行動できること、勇気と決断。
- 4、いつも双方通行のコミュニケーションを心がけていること。
- 5、できるだけ相手を評価したり分析しないこと、また相手を否定しないこと。
- 6、相手を捜査するような言動をしないこと。
- 7、親密さをもって、楽観的、開放的な姿勢で関わること。

ファシリテーターの役割

ファシリテイト = 促進する

ファシリテーター = 促進役 → 調整し、促す役

- ① 話を広めたり、深めたり、進めたり、あるメンバーとメンバーをつないだりします。
- ② 同時に、自分も一人の参加者として、他のメンバーに自らを開いていきます。
 - ・CRという場が、平場であるということを考えると、ファシリテーターも参加者の一人なので、自分のことを話してよいということになります。
 - ・また、ファシリテーターであることを名乗らないというやり方もあります。
 - ・ファシリテーターは誰がなってもよく、話の動きで突然、その役をしてもかまいません。

ファシリテーターがしてはいけないこと

- ① 1人のメンバーに重ねて質問する。
 - ・できそこないのカウンセリングになる。
 - ・質問された人が、話が不十分なのかと思う。
 - ・質問された人が、孤立感を持つ。
 - ・他のメンバーに、質問された人はわかっていないという印象を与える。

- 他のメンバーが、話すことに警戒的になる。
- ② 決まった答えがあると思わせるような質問をする。
- 「なぜそう感じるか考えたことある？」
- 「そういうのってどこから来ていると思う？」 など
- 質問された人が、間違っているのかという不安を抱く。
 - 他のメンバーも、自分の気持ちより、どこかにあるらしい正解を探すようになる。
 - メンバーが、話すことに警戒的になる。
- ③ ファシリテーターのやり方に異議が出たとき、すぐ釈明する。
- 発言した人が、拒否された感じを持つ。
 - 発言した人が、自分の言うことが不十分であると感じてしまう。
 - 発言した人が、孤立感を持つ。
 - メンバーが、ファシリテーターには意見を言えないと思ってしまう。
- ④ サポート的な言葉を、ファシリテーターが真っ先に力を入れて発言する。
- メンバーが、ファシリテーターに依存する。
 - メンバーが、ファシリテーターの発言に沿った発言だけをするようになる。
 - ファシリテーターのサポートが、発言者の気持ちに合わなくても、違うと言えない。
 - 気持ちに合致しないサポートを受けた人は、自分の気持ちがわからなくなる。
- また、「病人」であるような気分や、孤立感を持つ。
- ⑤ ある気持ちの理由や原因を、教育的に解説、示唆する。
- 解説されたメンバーは、自分が否定されたり不十分であると言われた気分になる。
 - 解説されたメンバーは、気持ちの受容がなされたと感じられない。
 - メンバーが、ファシリテーターの傾向に合わせた説明や解釈の仕方、自分を語るようになる。
- ⑥ 雑談に流れたとき、それにのる。
- まじめに話したいメンバーが、不満足な気持ちを持つ。
- ⑦ 時間に遅れた人を待つ。
- 時間通りに来ている人が、軽く扱われているような感じを持つ。
 - 遅れてくる人数によって、待ったり待たなかったりして、不公平感が生じ、また、グループ内のよい緊張感が失われる。
- ⑧ 役に立とうと張り切りすぎる。
- メンバーを依存的にし、グループメンバー間の相互作用を軽減する。
 - グループカウンセリングのできそこないになる